

2024（R6）年度（速報版）知床半島におけるヒグマの対応状況

1. 知床半島におけるヒグマの目撃・対応・有害捕獲の状況

今年度のヒグマ出没状況を超大量出没年（2023 年度）前後と比較するために 7 月 17 日締めで 2024 年度、2023 年度および 2019 年度^{※1}の対応件数・目撃件数・有害捕獲頭数を表 1 に示した。

各年度における合計目撃件数を見ると、2024 年度は計 705 件であり、前年比 65.5%（1075 件）と大きく減少した。一方で、大量出没年前である 2019 年度と比較すると 96.7%（729 件）であり、変化はなかった。次に、合計対応件数を見ると、2024 年度は計 495 件であり、前年比 87.5%（566 件）と減少した。一方で 2019 年度と比較すると 151.0%（328 件）であり、大きく増加した。有害捕獲の合計頭数を見ると、2024 年度は計 19 頭であり、前年比 70.4%（27 頭）と減少した。また、2019 年度と比較すると 67.9%（28 頭）であった。2019 年度は 1 年間の有害捕獲頭数が計 46 頭であり、2018 年度から 2023 年度の平均値（年 30.2 頭）を大きく上回る年であった。

※推進費事業による個体数推定の初年度。

表 1. 三町におけるヒグマの目撃・対応・有害捕獲頭数について

	年度	斜里町	羅臼町	標津町	合計
目撃件数	2024	586件	93件	26件	705件
	2023	884件	143件	48件	1075件
	2019	530件	179件	20件	729件
対応件数	2024	309件	110件	33件	495件
	2023	431件	111件	55件	566件
	2019	184件	110件	34件	328件
有害捕獲頭数	2024	13頭	3頭	3頭	19頭
	2023	19頭	6頭	2頭	27頭
	2019	19頭	8頭	1頭	28頭

※集計は 4 月 1 日から 7 月 17 日の期間で実施した。

2. ヒグマの人為的な死亡総数の速報値（知床半島ヒグマ管理計画の目標①に該当）

ヒグマの人為的な死亡数は、7 月 17 日時点において三町で計 20 頭（メス 7 頭、オス 13 頭）であった（表 1）。行動段階別でみると、行動段階 2（農作物加害）が最も多く 12 頭、次いで行動段階 1+ の 4 頭が続いた（表 2）。また、今年の人為的な死亡数を、超大量出没年である 2023 年と平年（2020～2022 の平均）と比較して図 1 に示した。4 月は各年にほとんど違いが見られなかったが、5 月は今年度が最多となった。6 月は今年度が最少となったものの、7 月は平年並みであった。

表 2. 2024 年度 7 月 17 日時点におけるヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳				1		
1歳	1	1	1	1	1	
2歳						1
3歳以上	3	1		7		2
小計	4	2	1	9	1	3
合計	7			13		

※標津町で春期管理捕獲により 1 頭捕獲. その他はすべて有害捕獲.

表 3. 2024 年度 7 月 17 日時点におけるヒグマ人為的死亡個体の内訳（町別・行動段階別）

行動段階		斜里町	羅臼町	標津町	計
3	人身被害	1	0	0	1
2	非農作物（生ゴミ・干し魚等）	0	0	1	1
2	農作物加害	12	0	0	12
1+	過度人なれ	0	2	2	4
1	人なれ	0	1	0	1
0	警戒心強い	0	0	0	0
判定不能	わな錯誤捕獲など	0	0	1	1
計		13	3	4	20

※判定不能の 1 頭は春期管理捕獲によるもの.

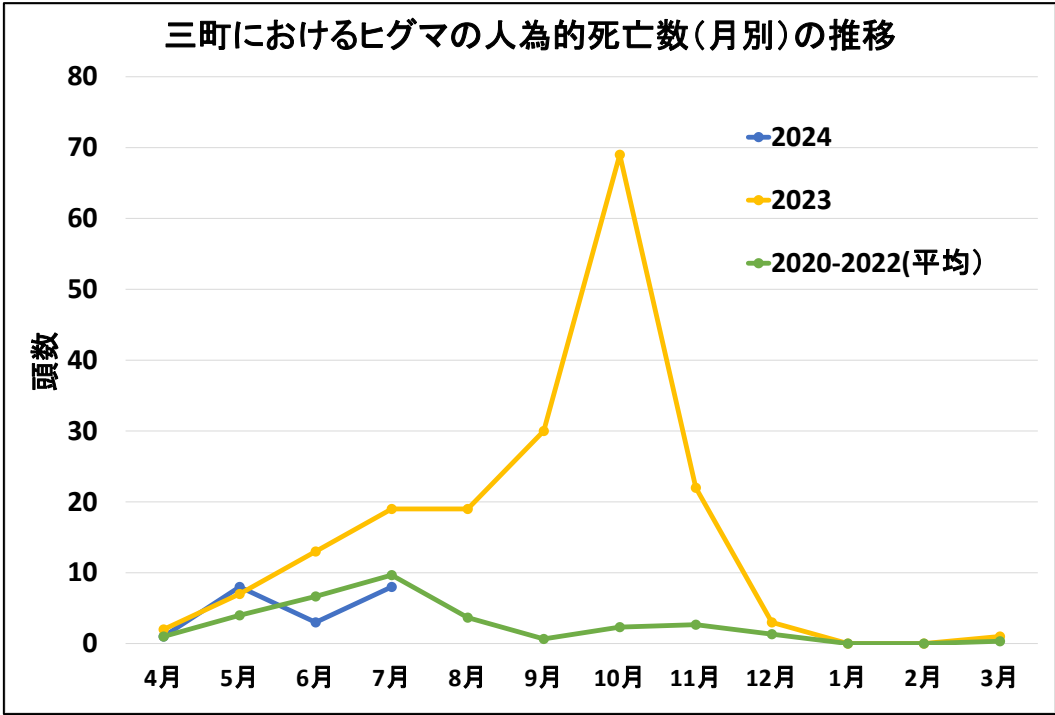


図 1. 三町におけるヒグマの人為的死亡数（月別）の推移

※2024 年は 7 月 17 日まで集計した結果を示す

3. 各町の出没状況

3-1. 斜里町におけるヒグマの出没状況（7月17日時点）

（1）市街地（ゾーン4）への出没状況

7月17日時点において、斜里町の市街地（ゾーン4）でヒグマの出没が計14件（斜里市街地1件、ウトロ市街地13件）発生した（昨年同日：計4件）。ウトロ市街地におけるヒグマの出没は6月1日から7月1日まで断続的に続いた（図2）。目撃情報等で得られた体サイズ等から市街地内において少なくとも2〜3頭の個体が入り出している状況が推測された。また、現場に残された糞等から採取したDNAにより、2023年9月1日にウトロ市街地（ウトロ西）へ侵入した個体が識別された。つまり、当該個体は2年連続でウトロ市街地へ侵入していた（ID:23SP01、性別：オス、写真1）。

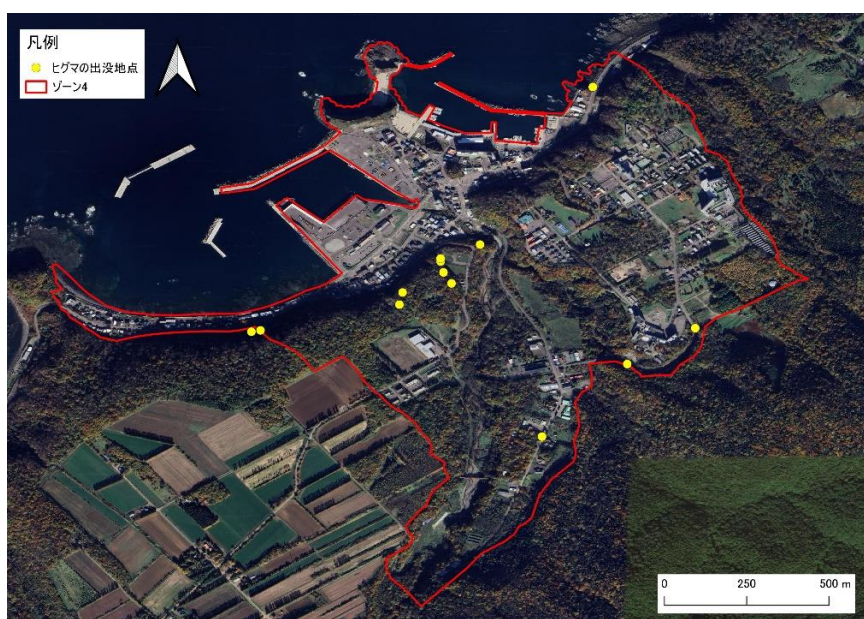


図2. 7月9日時点における斜里町ウトロ市街地におけるヒグマ出没地点



写真1. 6月15日に撮影された単独亜成獣サイズのヒグマ（ID:23SP01、性別：オス）

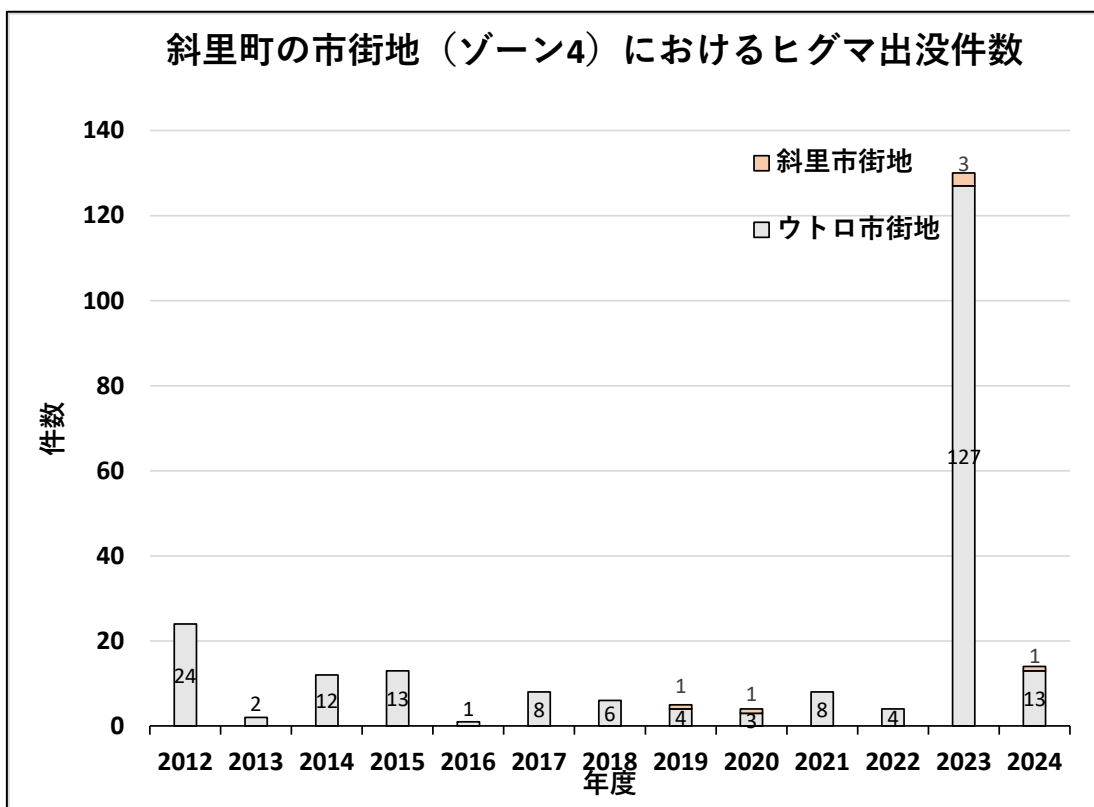


図 3. （参考）斜里町の市街地における年度別のヒグマ出没件数の推移
 ※2024 年は 7 月 17 日まで集計

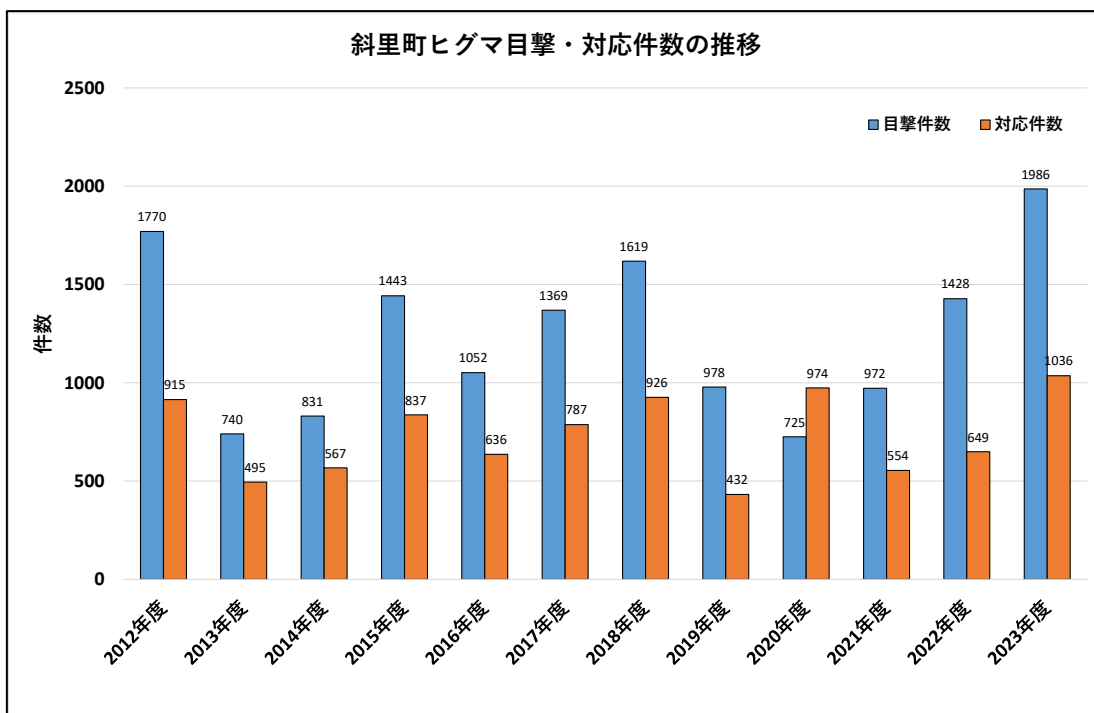


図 4. （参考）斜里町におけるヒグマ目撃・対応件数の推移（2012～2023 年度）

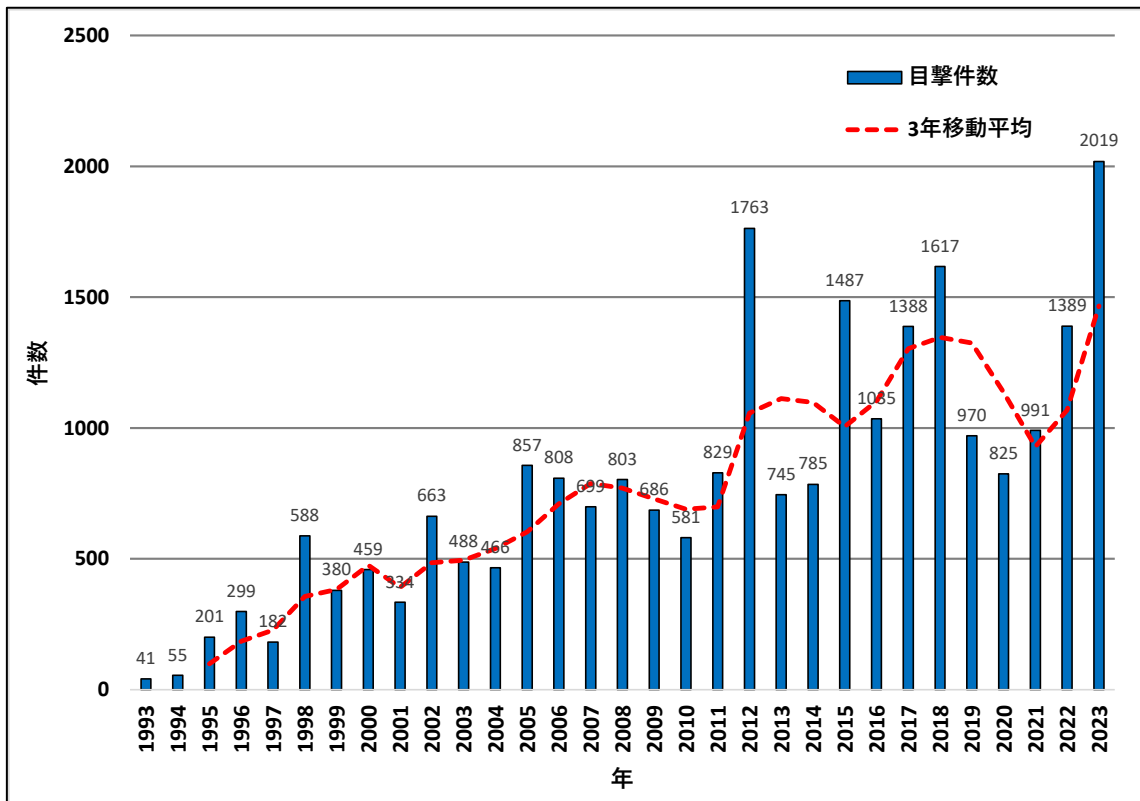


図 5. (参考) 斜里町におけるヒグマ目撃件数の推移 (1993～2023 年)

(2) 農地への出没状況

今年度は、例年通り山林や河川と隣接する農地でヒグマの出没が確認されているが、市街地に近い農地においても頻発に出没が確認されており、例年と状況が大きく異なっている(図 6)。ヒグマは東西南北につながる防風林をつたって移動していることが分かっており、複数頭が出入りしている状況である。特に斜里市街地中心部に近い場所においても出没が確認されており、中心市街地へのヒグマの侵入が危惧される。人の生活圏とその周辺を恒常的な行動圏とする個体については、管理・対策を適切に進める必要がある。

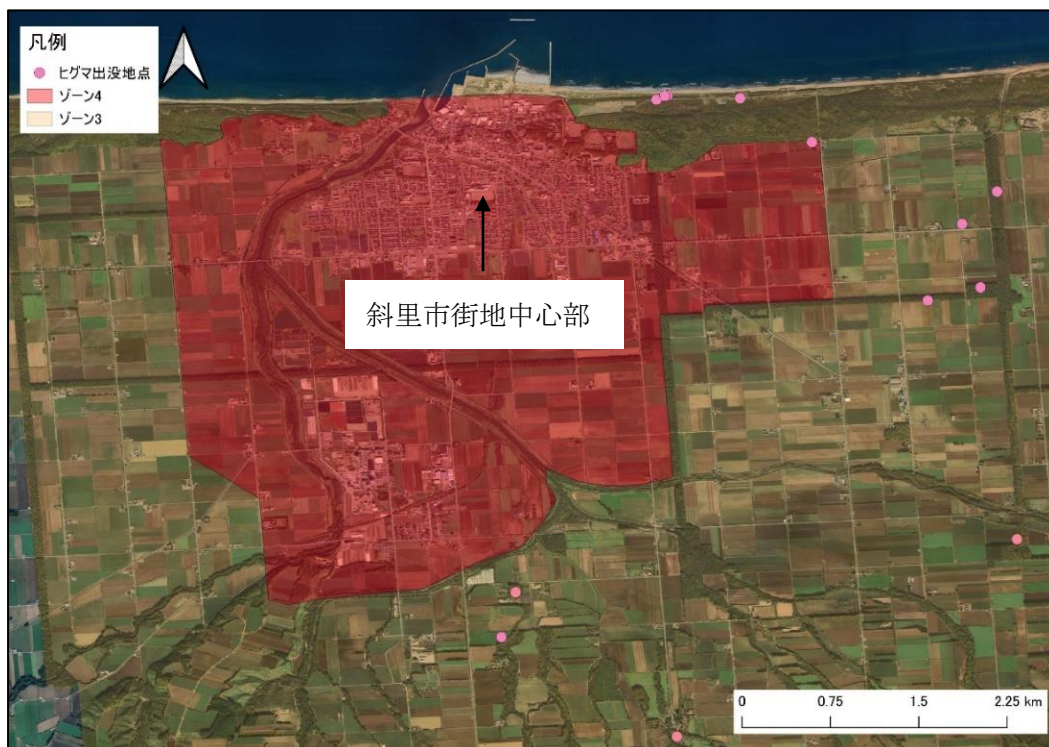


図 6. 斜里市街地周辺におけるヒグマ出没地点

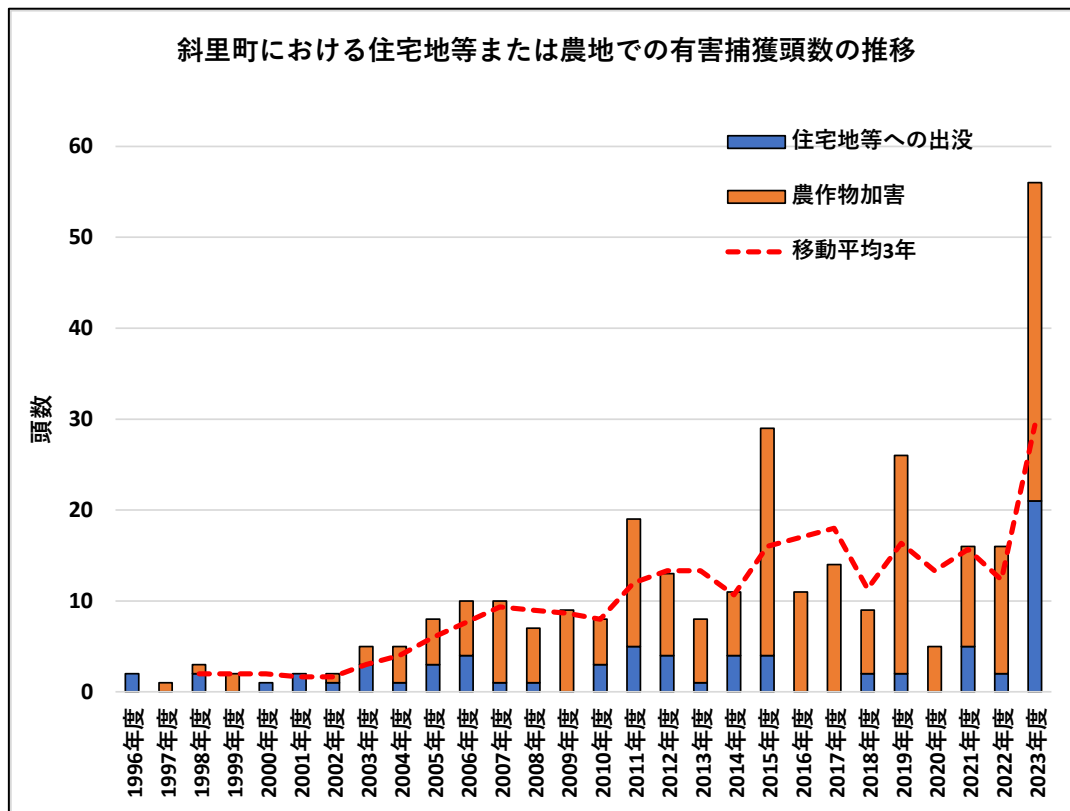


図 7. (参考) 斜里町の住宅地または農地における捕殺数の推移 (1996～2023 年度)

(3) 特筆すべき事項

7月11日に知床五湖園地の高架木道入口付近において、人に対して威嚇突進を何度も繰り返すオス成獣のヒグマが確認された。誘引物（シカの死体）や繁殖期の争いで負傷している可能性も考え、何度も現地調査を実施したが、当該個体はミズバショウを採食しているだけであり、負傷している様子は無かった。その後、知床五湖で連日調査を行い、地上遊歩道は計5日間終日閉鎖となった。7月16日には、対策員に寄ってきて、威嚇行動や威嚇突進を繰り返したため、環境省・斜里町・北海道・知床財団で協議を行い、行動段階3の個体として捕殺することとなった。当該個体はオス成獣であり、体重195 kgであった。なお、今年の4月29日にも高架木道入口付近でオス成獣のヒグマが利用者に威嚇突進を行う事案が発生していた。この事案の際にも現地調査を実施したが、シカ等の誘引物は確認されなかった。当該個体からDNAを採取できていないため断言することはできないが、この個体と本件で駆除対応となった個体が同一であった可能性がある。

知床五湖園地における対応状況について、表1に記す。

なお、ヒグマ活動期*における知床五湖の地上遊歩道で、5月31日に遊歩道脇でヒグマがエゾシカ（成獣）を採食する事例が発生した。最終的に各ガイド事業者はヒグマがシカを採食している状況を確認したが、ツアーは終日継続された。ただし、管理者判断（環境省・北海道・斜里町）にて、翌6月1日は終日地上遊歩道を閉鎖とし、6月2日より地上遊歩道の利用を再開した。

※各ツアーの中止判断については基本的に引率者の判断に委ねられる。

表1. 知床五湖園地における捕殺個体への対応概要

日付	対応概要
7月11日	高架木道入口付近において、オス成獣のヒグマが利用者に計3回の威嚇突進を繰り返す事例が発生した。当該個体がいた場所を調査したが、シカの死体は無く、大量のミズバショウの食痕が確認された。また、この個体は藪に身を潜めるなどの一定程度の警戒心はあったものの、場所を移動することなく、人前に繰り返し姿を現し、計3回の威嚇突進を行っていた。このような状況から、知床五湖園地を安全に利用することが困難であるため、地上遊歩道および高架木道は終日閉鎖となった。その後、当該個体が再出没したため、追い払いを実施し、姿が見えなくなったため対応を終了した。
7月12日	前日の状況を踏まえ、午前6時から調査を実施。オス成獣のヒグマの姿はなく、地上遊歩道は開放となったが、午前9時頃に地上遊歩道小ループα地点で再出没が確認されたため、地上遊歩道は終日閉鎖となった。午後に計2回の調査を実施したところ、オス成獣のヒグマを確認した。複数回の追い払いを実施したものの、当該個体は藪に身を潜め、五湖園地から移動しなかった。その後、日没となり、対応を終了した。

日付	対応概要
7月13日	午前4時から五湖園地全体の調査を実施した。調査時に、ヒグマの姿は確認されず、地上遊歩道は開放された。
7月14日	午前8時半に地上遊歩道大ループA地点でヒグマが確認されたため、現地調査を実施したところ、前掌幅約16cmの足跡、ミズバショウの食痕を確認した。現地で滞留している状況であったため、地上遊歩道は終日閉鎖となった。その後、午後に調査を1回実施したが、ヒグマの目視はなかった。
7月15日	午前6時から調査を開始。地上遊歩道大ループA-B地点間でミズバショウの新しい食痕を確認した。調査中に藪が動く音が聞こえ、音の大きさからヒグマと判断した。ヒグマが滞留している状況であったため、地上遊歩道は終日閉鎖となった。
7月16日	午前6時から調査を開始。地上遊歩道大ループから小ループへ移動し、パークサービスセンター方向へ移動する新たな足跡を確認した。ヒグマがまだ遊歩道内で滞留している可能性があるため、地上遊歩道は終日閉鎖となった。その後、午前11時にオス成獣のヒグマが高架木道入口付近で確認された。当該個体は20人ほどの利用者に対して地面を叩く、倒木を壊す等の威嚇行動を行った。さらに、ヒグマ対策員に対して、威嚇突進を行った。何度追い払いを行っても同じ行動を繰り返しており、行動改善が見られず、利用者の人身事故リスクが極めて高い状態であることから、環境省・斜里町・北海道と協議を行い、当該個体を捕殺することとなった。

3-2. 羅臼町におけるヒグマの出没状況(7月17日時点)

市街地（ゾーン4）におけるヒグマの出没（痕跡情報を含む）は、計43件（目撃が30件、痕跡が13計）発生していた。前年同日集計では計31件（目撃が25件、痕跡が6件）となっており、市街地（ゾーン4）へのヒグマの侵入は昨年度よりも多い状況となっている。水産加工場の残滓が荒らされたりするなどの被害は発生しておらず、市街地出没の全てが市街地内でヒグマが草本を採食しているなど、地域住民の管理不徹底とは関係のない、単純なヒグマの市街地侵入が起因となっている（写真2, 3）。有害駆除を目的とした現場対応は計14件発生し、有害捕獲数は計3頭（昨年同日の累計は6頭）であった。対応件数の累計は計110件（前年同日の累計は111件）となっており、大量出没前と比較して人の生活圏におけるヒグマの出没状況に大きな変化は生じていない。



写真 2. 5 月 10 日に小学校裏に出没した個体（オス成獣）



写真 3. 6 月 30 日に発見された市街地内（ゾーン 4）のヒグマ糞

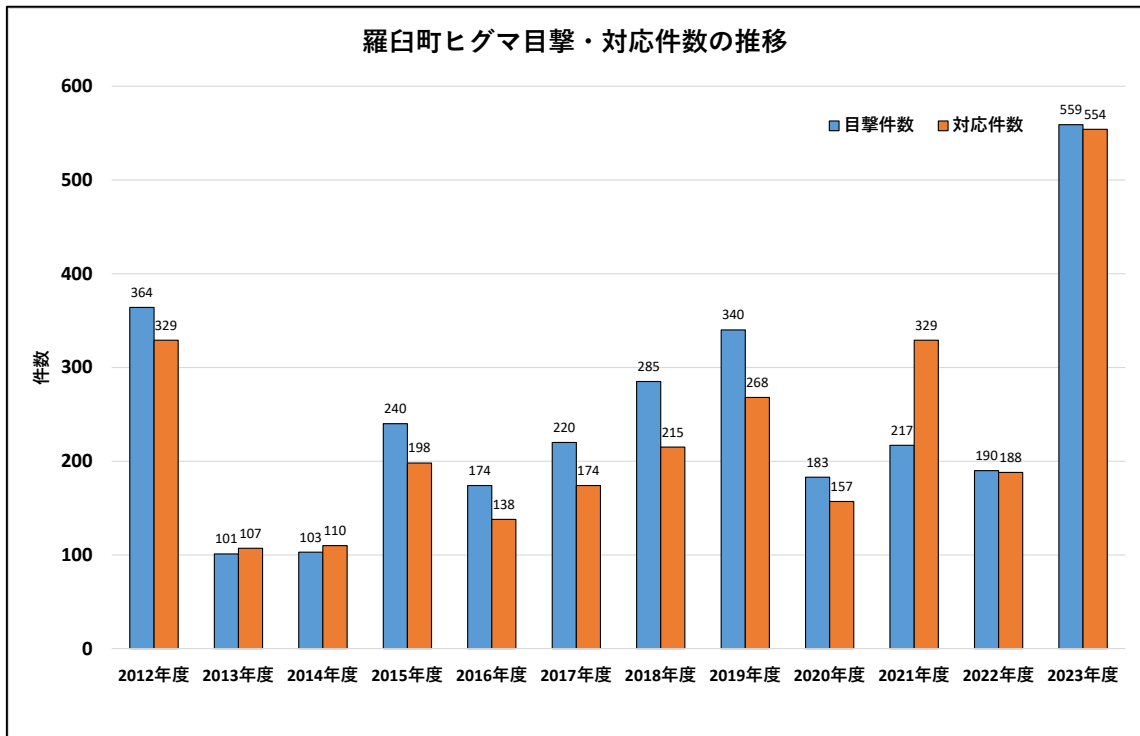


図 8. （参考）羅臼町におけるヒグマ目撃件数の推移（2012～2023 年度）

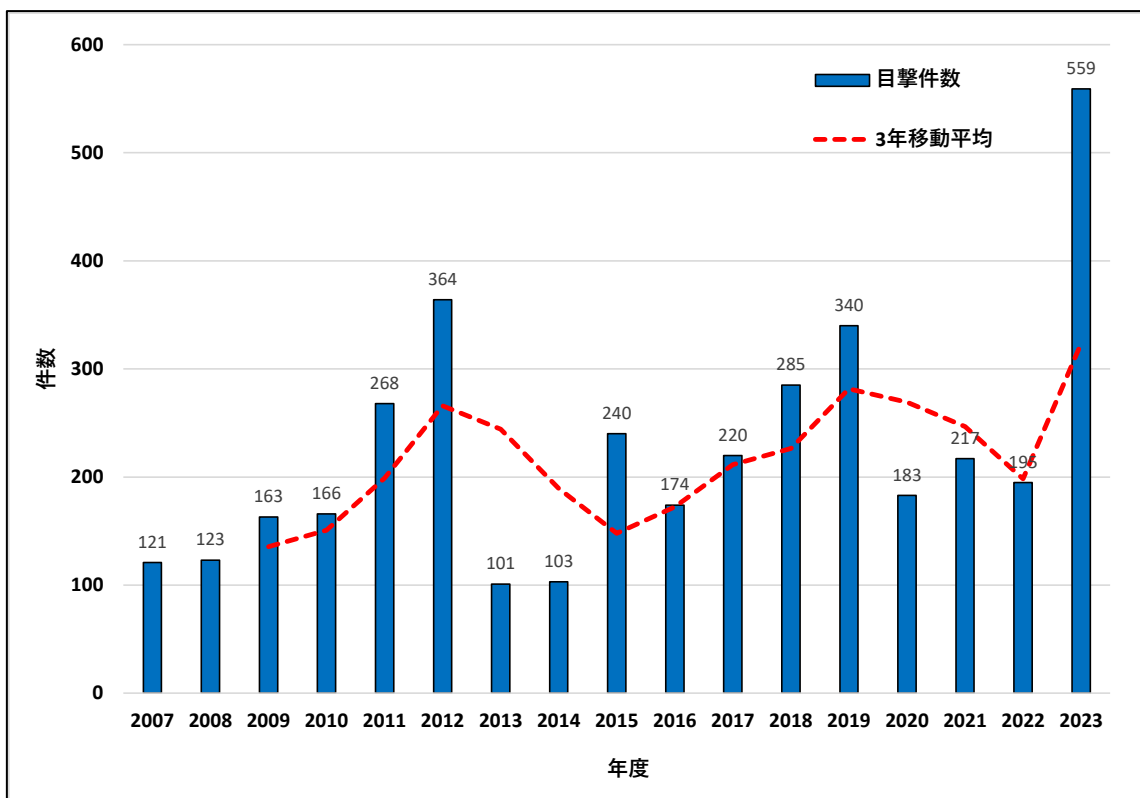


図 9. （参考）羅臼町におけるヒグマ目撃件数の推移（2007～2023 年度）

3-3. 標津町におけるヒグマの出没状況(7月17日時点)

市街地(ゾーン4)におけるヒグマの出没(痕跡情報を含む)は、累計で計1件(前年同日の累計は1件)となっており、市街地(ゾーン4)へのヒグマの侵入は昨年と同様な状況となっている。

市街地(ゾーン4)ではないが、各地海岸にて漂着した海獣死骸に起因してヒグマの出没が相次いでいる。

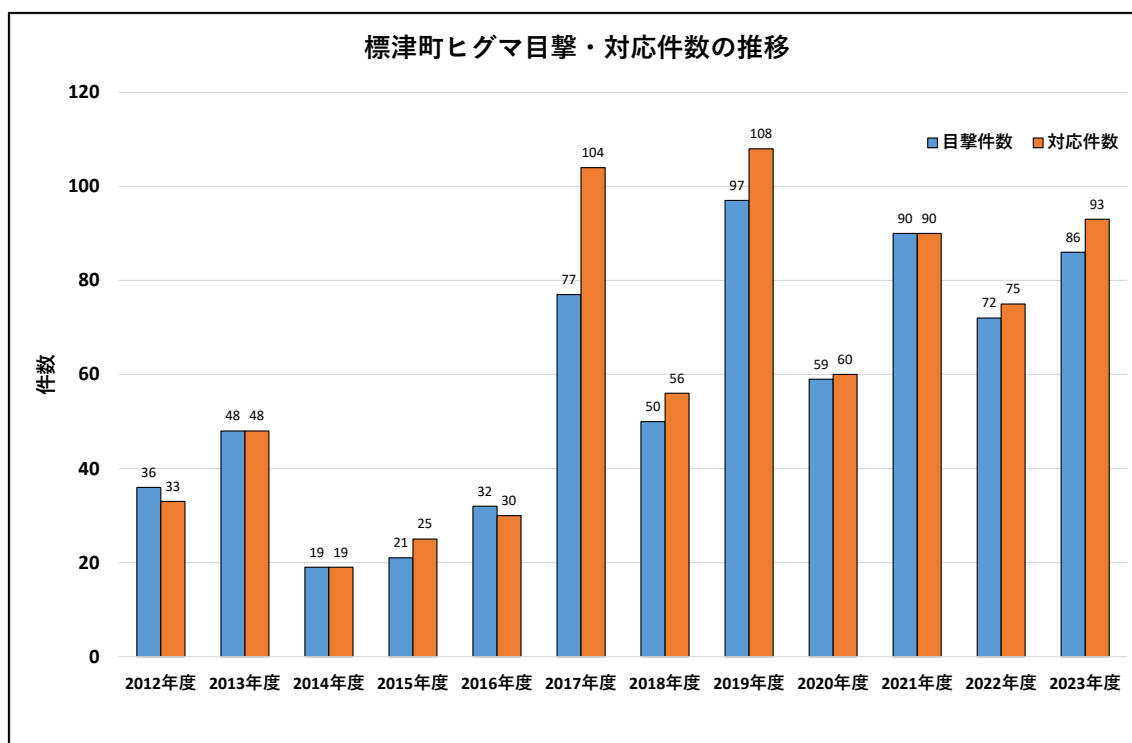


図 10. (参考) 標津町におけるヒグマ目撃件数の推移(2012~2023 年度)